

ゼレンスキー現行犯：ハンター・バイデン生物兵器網の 証拠を焼却せよ

<https://www.infowars.com/posts/zelensky-caught-red-handed-destroying-evidence-of-hunter-biden-biolab-network/>

Kelen McBreen
January 31, 2023

⇒ウクライナ大統領は、彼のアメリカの仲間たちのために、証拠隠滅すべきことを知っていた。

DC Draino によって日曜日に投稿され、各メディアも報じたツイッター記事が、ある重大な物語に焦点を与えるものとして、アップデートされている。これは 7 か月以上前に Infowars も取り上げている。2022 年 6 月、独立ジャーナリスト Clandestine は、ウクライナの文書の翻訳版を、彼の Substack ページに載せ、ヴォロジミール・ゼレンスキー大統領が、この国の生物研究所に関係するすべての文書を、破壊せよと命じたことを明らかにした。これはロシアによる侵攻当日のことであり、彼らが、ハンター・バイデンに繋がる会社 Metabiota と協力していたことを示すものである。

https://twitter.com/DC_Draino/status/1619786666625097728?ref_src=twsrc%5Etfw%7Ctwcamp%5Etweetembed%7Ctwterm%5E1619786666625097728%7Ctwgr%5E41d4051c9a0dbd86def955ba6f2602af311f226a%7Ctwcon%5Es1_&ref_url=https%3A%2F%2Fwww.thegatewaypundit.com%2F2023%2F01%2Fzelensky-sent-government-decree-destroy-information-hunter-bidens-metabiota-company-day-russian-invasion-including-hunter-documents-metabiota%2F

イーロン・マスクのツイッター獲得のおかげで、この物語が本来あるべき注目を、ついに浴びることになったのは、素晴らしいことである。しかし同時に注目すべきは、Infowars が情報戦線の前線をつけたことである。

2022 年 6 月 15 日の Infowars 記事は、以下の通りだった：

ロシアのニュース報道 Izvestia によって、火曜日、リリースされたと言われるドキュメントは、ウクライナ大統領ヴォロジミール・ゼレンスキーが、この国の生物研究施設に関係するすべての記録文書の、焼却を命令したことを示している。この施設は、ハンター・バイデンの関与する会社 Metabiota との協力によって運営されている。

独立ジャーナリスト Clandestine は、この文書の原版を翻訳版とともに、彼の [Substack ページ](https://bioclandestine.substack.com/p/zelensky-ordered-destruction-of-all?s=r) に投稿し、ウクライナ政府の文書が、なぜこれほど重要であるかを、詳細に説明している。 <https://bioclandestine.substack.com/p/zelensky-ordered-destruction-of-all?s=r>

Clandestine のニュース・レター：

この文書は、2022 年 2 月 24 日の日付となっており、ロシアのウクライナへの軍事侵攻の始まった、当日に公布されたものである。

この手紙はこう述べている：——

「ウクライナ防衛省は、ウクライナ安全保障局の参加を得て、ウクライナの戒厳令行動に応じ、2022 年 2 月 24 日から、ウクライナ大統領の指令に基づいて、ウクライナ保健局の公共保健センター、ウクライナ疫病防止研究所（その他、省略——訳者）などの国家施設の、**公務員、被雇用者、スタッフらの、個人的なファイルの、徹底的な焼却を組織計画した。彼らは、Metabiota Inc., Battelle の科学者たちと、共同で作業した人々である。**」

アメリカのメディアが侵攻の当日、取材していたとき、NBC の “Today Show” のある報道が、偶然、焼却されている文書のフィルムを放映したようだ。

Erin McLaughlin 記者は、ビューアーに対し、ウクライナのキエフの軍事情報司令部がミサイル攻撃されていたとき、軍人たちが大量のプラスチックのゴミ袋を、燃えている資料の山に投げ込んでいるところを、ビデオに撮っていたのだと語った。

この施設から立ち上る煙は、燃えている大量の山からのもので、ミサイルの攻撃によるものではなかった。ビルが攻撃されているのではないことは、このフィルムが示している。

ドイツの DW ニュースは、ロシア侵攻の当日の、不思議なフィルム映像を指摘している：

知らされていない男たちが、キエフのウクライナ防衛省情報司令部の外で、文書を燃やしているのが見えた。

ウクライナは、その軍事司令部センターの一部が、ロシアの攻撃を受けたと言っている。しかし、この建物は無傷のように見えた。

侵攻が始まった同じ日に、Infowars は、ロシアはこの軍事作戦の間、アメリカの運営するウクライナの生物兵器研究所を標的にしているという説を唱えていた。

<https://www.infowars.com/posts/russian-strikes-targeting-us-run-bio-labs-in-ukraine/>

3月初め、Infowars は、ロシア政府による同じような主張を報じ、ロシアの防衛省報道官イゴール・コナシェンコフは、ペンタゴンの出資するウクライナの生物兵器研究所の従業員が、この施設で実験されている危険な病原体を、慌てて焼却していると報告した。

<https://www.infowars.com/posts/russian-military-accuses-pentagon-of-destroying-evidence-of-secret-biological-experiments-in-ukraine-pt-1/>

「アメリカとウクライナによる、生物兵器協定 第1条への違反の事実を、暴かれるのを防ぐために、ウクライナ保健省は、すべての生物研究所に指令を送り、危険な病原体のストックを、即刻、廃棄することを命じた」と、彼はその当時、説明した。

ゼレンスキーが、ロシアが侵攻を始めたその日に、Metabiota 関係の文書の焼却を命令したという事実は、彼がこの研究の邪悪な内容を知っていて、ロシアがこの研究所に関心をもっているのを知っていたことを証明している。

数か月も前に、Infowars は、ロシアが、アメリカの運営するウクライナの生物研究所について主張していることを、報告しており、ハンター・バイデン、クラウス・シュワブ、ジョージ・ソロスといった人々が、そこに関係していることも報じている。

ホワイトハウスや主流メディアは、アメリカの出資する生物研究ネットワークは、ウクライナには「存在しない」と言っているが、ペンタゴンは先週、これを認めて、46のウクライナの「研究所、保健施設、病気診断所」に、過去20年間以上、かかわってきたと認めた。

<https://www.infowars.com/posts/pentagon-quietly-admits-funding-46-biolabs-in-ukraine-after-months-of-dismissing-russian-allegations-as-propaganda/>

ウクライナの、アメリカ生物研究ネットワークに関する情報が、さらに表面化するとともに、ロシアは再び公的にアメリカに呼びかけ、このような施設への共同調査を要求した。

ロシアの外務省報道官マリア・ザハロワは、アメリカに呼びかけ、国連の生物兵器条約を順守するように、また彼らのウクライナにおける生物活動については、透明性を守るように要請した。

「我々は、アメリカの同僚たちに対し、職業倫理を堅持してくださるよう、プロパガンダの情報縫いぐるみの代わりに、直ちに、実質的な意味のある仕事に携わっていただき、

かつてのソ連諸国での、軍事生物活動にかかわるような現状を、是正して下さるように願っています」と、彼女は今週、話した。 <https://tass.ru/interviews/14890685?>

バイデン大統領は確かに、なんとか説明しなければなるまい。

例えば、ハンター・バイデンと米国防省は、ウィルスの流行が公的になった、3 か月も前に、どうして、ウクライナの Covid-19 の研究を始めることができたのか？

<https://www.infowars.com/posts/report-hunter-biden-connected-ukraine-biolabs-worked-on-covid-19-research-3-months-before-pandemic-began/>

時間がたてば、腐敗した国連が、アメリカの責任を問うか、それとも、そもそも公正な調査さえするかどうかが、わかってくるだろう。

[訳者 Greatchain 注]

これは面白い話で、アメリカの生物兵器犯罪集団とウクライナのゼレンスキーは、初めから完全に癒着した一味だったことがわかる。一番面白いのは、おそらく、ロシア防衛省の報道官マリア・ザハロワの、アメリカに対する要望である。